

メディカル・プロフェッショナルリズムV

科目責任者 山内 かつ代
学年・学期 5学年・2学期

I. 前 文

メディカル・プロフェッショナルリズムとは、「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていくこと」とされています。すなわち、医師には社会から信頼され、思いやりを持って他者に接する態度などの医師に相応しい資質や能力が求められており、プロフェッショナルリズムはその最上位として医学教育モデル・コア・カリキュラムに挙げられています。獨協医科大学では順次性を持った6年一貫の「メディカル・プロフェッショナルリズム (D-Mep)」に能動的に参加することで、医師としてのプロフェッショナルリズムを涵養します。

順次性を持って計画されたD-Mepでは、単位認定要件として「良き医師となるには」というレポート課題を各学年での単元終了後に提出してもらい、医療に対する考え方の軌跡を履修者に振り返ってもらうことも目的としています。

D-MepVでは、クリニカル・クラークシップで実臨床の場に出る学生に求められるプロフェッショナルリズムを学びます。実際に患者と接するにあたっては、診療で知り得た個人情報の保護が強く求められます。また検査や処置、手術などを行う際に起こりうるインシデント、アクシデントを知り、その発生予防に努めることも必要です。本授業では医師に求められる個人情報保護のあり方、医療事故とその予防、医療紛争について学び理解することを目指します。また臨床の場においてはさまざまな臨床研究が行われますが、実臨床での研究倫理、研究デザインなどについても修得することを目指します。

II. 担当教員

矢内原 仁 (医療安全推進センター (医療安全管理部門))
濱 口 眞 輔 (麻酔科)
上 杉 奈 々 (医学教育学/URAセンター)
小 橋 元 (公衆衛生学)

III. 一般学習目標

・臨床現場で求められるプロフェッショナルリズムについて学び、実践できる。

IV. 学修の到達目標

- 1) 医療現場に必要な個人情報の保護について理解する。
- 2) 医療現場でのインシデント、アクシデントについて理解する。医療安全、医療事故防止の重要性と方法について理解する。
- 3) 医療紛争の原因、経過を学び、その発生を防ぐことの重要性を理解する。臨床研究における医療倫理について理解する。
- 4) 臨床研究のデザインについて理解し、模擬的な研究プランを立てる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	9	24	木	1	臨床研究に求められる倫理	上 杉 奈 々	1
2		24	木	2	臨床研究のデザイン①	小 橋 元	3
3		24	木	3	臨床研究のデザイン②	小 橋 元	3
4		24	木	4	臨床研究のデザイン③	小 橋 元	3
5		25	金	1	医療安全①	矢内原 仁	1
6		25	金	2	医療安全②	矢内原 仁	3
7		25	金	3	医療安全③	矢内原 仁	3
8		25	金	4	緩和ケア①	濱 口 眞 輔	1
9		25	金	5	緩和ケア②	濱 口 眞 輔	3
10		25	金	6	緩和ケア③	濱 口 眞 輔	3

(備考)

第1, 2, 3回:「医療安全」(インシデント・アクシデント, 医療安全を含む)

- ・病院実習に出るにあたって知っておくべき個人情報の保護について, 電子カルテで患者情報を操作しながら理解する。
- ・病院でのインシデント, アクシデントとはどういうものか, 発生した際の手続きなどについて理解する。
- ・医療安全室の役割を把握し, 医療従事者が留意すべき事柄について理解する。
- ・演習では, 個人情報漏洩の事例, インシデント・アクシデントの事例をもとに, 問題が生じた際の患者側の気持ちを理解し, どのように接するかに重点を置いて学習する。

第4, 5, 6回:「緩和ケア」

- ・講義: 病棟実習で学んだ緩和ケアの実際について, 質の向上となり得る点を説明できる。
- ・実習①: 癌の告知, 予後の宣告を受けた立場になって, 自身の死生観について発表する。
- ・実習②: 書籍教材を用いて, 学生が患者役, 医師役, 看護師役となってロールプレイを行う。
- ・Tutor: 白川賢宗(緩和ケア専従医), 岡本猛(足利日赤緩和ケア部長), 渡辺邦彦(在宅緩和ケア医)

第7回:「臨床研究に求められる倫理」

- ・臨床研究の計画立案・遂行において求められる, 倫理的妥当性と科学的合理性の関係と被験者保護のあり方について理解する。
- ・臨床研究の信頼性確保に必要な利益相反管理, モニタリング・監査および有害事象・不適合の報告の意義を理解する。

第8, 9, 10回:「臨床研究のデザイン」

- ・第7回の講義内容および事前課題動画の内容を踏まえて, 研究計画をグループごとに作成しPBL形式で検討する。
- ・臨床研究を計画する際の方法や注意点について理解する。

VI. 評価基準(成績評価の方法・基準)

【成績評価】

以下のとおり成績評価する。()内は評価の割合。

臨床研究に求められる倫理: 講義後にリフレクションを提出する(10%)。

臨床研究のデザイン: 事前課題として研究計画書を提出, ディスカッション中の態度の評価, 事後課題としてリフレ

クションを提出（30％）。

医療安全：事後課題としてレポートを提出（30％）

緩和ケア：事後課題としてレポートを提出（30％）

いずれも詳細についてはLMSおよび授業内で連絡する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

（参考図書）

川村 孝「臨床研究の教科書（第2版）」（医学書院・2020）

田代 志門「みんなの研究倫理入門 —臨床研究になぜこんな面倒な手続きが必要なのか」（医学書院・2020）

VIII. 質問への対応方法

授業時間内に直接質問する。時間外においては、それぞれの担当教官に確認すること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Moodle内でのフィードバックを基本とする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：シラバスを参考に講義の要点を確認すること。（所要時間の目安30分）

事後学習：講義の内容をまとめること。（所要時間の目安30分）

なお、各基盤科目の詳細な事前学修・事後学修については、LMSを通じて各担当教員により説明する。

XII. コアカリ記号・番号

PR-01信頼、PR-02思いやり、PR-03教養、PR-04生命倫理

GE-01-06緩和ケア

RE-01リサーチマインド、RE-02既知の知、RE-03研究の実施、RE-04研究の発信、RE-05研究倫理

CS-05-01医療の質向上、CS-05-03安全管理体制、CS-05-05患者安全の配慮と促進、CS-05-06患者安全の実践